

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：34603

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00967

研究課題名（和文）日本中世・近世都市郊外の開発とその歴史的過程に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental research on the development and historical process of urban suburbs in medieval and early modern times in Japan

研究代表者

河内 将芳（KAWAUCHI, Masayoshi）

奈良大学・文学部・教授

研究者番号：40340525

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：八坂神社では、八坂神社に所蔵される古文書・古記録の原本調査を研究代表者・研究分担者がその一員として加わる八坂神社文書編纂委員会と協力しておこなった。具体的には、まず、これまでまったく公にはされてこなかった明治時代以降の「社務日記」の調査をおこなった。また、江戸時代以降の祇園社役者であった狛氏の手になる記録「万覚日記」の翻刻作業と刊行をすすめた。

いっぽう、清水寺でも、研究代表者・研究分担者がその一員として加わる清水寺史編纂委員会と協力して、清水寺に所蔵される古文書・古記録および絵画史料の調査・研究をおこなうとともに、『清水寺成就院日記』の翻刻作業と刊行をすすめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって八坂神社・清水寺所蔵の古文書・古記録および絵画史料の概要が把握できるようになったことは、当該寺社の歴史を解明するための基盤がととのえられたことを意味する。と同時に、八坂神社・清水寺が所在する鴨東地域・東山地域の開発とその歴史的過程をあきらかにしていくための基盤がととのえられたことを意味する。

そして、それら史料の一部を刊行することができたことは、今後の歴史研究に資するという学術的な意義のみならず、それを手にすることによって一般の人びとにも八坂神社・清水寺の歴史に対する関心を喚起するという社会的意義をもつと考えられる。

研究成果の概要（英文）： At Yasaka Shrine, we conducted a survey of the originals of ancient documents and records held at Yasaka Shrine in cooperation with the Yasaka Shrine Documents Compilation Committee, in which the research representative and co-investigators are members. Specifically, I first investigated the "company affairs diaries" from the Meiji period onwards, which had not been made public until now. In addition, he promoted the transcription work and publication of the record "Mankaku Nikki" written by Mr. Koma, who was an actor at Gion shrine after the Edo period. On the other hand, Kiyomizu-dera also cooperated with the Kiyomizu-dera History Compilation Committee, in which the principal investigator and co-investigators are members, to investigate and research the ancient documents, records, and historical materials of paintings held at Kiyomizu-dera. He recommended the reprinting and publication of Jojuin Nikki.

研究分野：日本中世史

キーワード：八坂神社 清水寺 鴨川 祇園社 成就院 東山

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまで日本中世・近世の都市のうち、おもに京都をフィールドとして、その都市社会についての研究をおこなってきた。研究代表者がおもに対象としてきたのは、中世、京中(洛中)とよばれた都市の中心市街地とその周辺を示す洛外といった、きわめて限定された地域(いわゆる洛中洛外)であった。これは、中世、とりわけ戦国期の京都の中心市街である京中(洛中、上京と下京)が惣構とよばれる城塞のごとき施設にとり囲まれるという空間的なありかたに起因したもののだが、研究代表者は、そのかぎられた都市空間のなかで展開されたさまざまな社会的・文化的事象などについて検討を加え、研究をすすめてきた。

そうした研究をつづけていくなかでうきぼりとなってきたのが、中世から近世にかけて、とりわけ豊臣秀吉の時代以降、洛外やそれより外側である郊外における開発とそこへの都市社会の拡大が顕著にみられるということである。とくに鴨川より東側の鴨東地域と東山地域のうち、四条通りから五条通り(現、松原通り)の区間における開発とその変貌は前代とは一線を画するものになっていったということがしだいにうかがえるようになった。ところが、開発がおこなわれ、変貌したという事実自体はうかがうことができても、その実態や歴史的な過程を説明するとすると、それを具体的に裏づけることのできる史料に欠けるといった大きな問題もあきらかとなってきた。そのようななか、2013年度～2015年度にかかる科研費・基盤研究(C)「日本中世・近世寺社古記録成立に関する基礎的研究」の調査・研究の一環としてとりくんできた八坂神社(祇園社)所蔵の古文書・古記録の調査の過程で、本研究の研究分担者より、これまで知られてこなかった鴨東地域・東山地域のうち、四条通りの延長線上に所在する八坂神社領について中世から近世にかけて開発状況を知りうる史料(古文書・古記録および絵図などの絵画史料)の存在を教示された。また、同じく鴨東地域・東山地域で五条通り(現、松原通り)の延長線上に中世以来所在する清水寺にも同系統の史料が存在する旨の情報が示されると同時に、それらが未公表・未整理の状況にあるとの情報も得ることになり、さらなる研究の進展がのぞまれたことが背景となった。

## 2. 研究の目的

四条通りの延長線上に所在する八坂神社、そして五条通り(現、松原通り)の延長線上に所在する清水寺など、中世以来、鴨東地域・東山地域に所在する神社・寺院が所蔵する古文書・古記録および絵画史料の調査・研究が、研究史をかんがみても急務かつ不可欠である。本研究では、研究代表者・研究分担者が共同して、八坂神社所蔵の古文書・古記録および絵画史料の調査・研究を継続していくとともに、清水寺所蔵の古文書・古記録および絵画史料へと調査・研究を拡大していくことをとおして、当該地域の開発の実態ならびにその歴史的過程についてあきらかにしていくことを目的とした。

## 3. 研究の方法

日本中世都市の郊外が近世にかけてどのようにして開発され、都市社会のなかに組み込まれていったのか、その実態ならびに歴史的過程をあきらかにするため、京都の東部郊外、鴨東地域ならびに東山地域に中世以来所在する八坂神社・清水寺などが所蔵する古文書・古記録および絵画史料の調査・研究をおこなった。具体的な調査・検討項目は、次のものである。

- (ア) 八坂神社に所蔵される古文書・古記録・絵図など絵画史料の原本調査
- (イ) 清水寺に所蔵される古文書・古記録および絵画史料の原本調査
- (ウ) 以上の調査・研究の結果、抽出・整理した史料(古文書・古記録および絵画史料)の横断的・相互的な検討

## 4. 研究成果

- (1) 八坂神社所蔵史料の調査・研究について  
八坂神社に所蔵される古文書・古記録および絵画史料の調査・写真撮影・整理作業を研究代表者・研究分担者も所属する八坂神社文書編纂委員会と協力しつつすすめた。まず、古文書・古記録全般については、すでに重要文化財に指定されているものにつづき、追加の指定を申請するための基礎的な作業として編年整理と目録作成をおこなった。また、絵図・地図などの絵画史料の調査・写真撮影をおこなった。さらには、明治以降に書きつがれてきた社務日誌の調査・写真撮影をおこなうとともに、祇園社役者である粕氏の日記を『八坂神社日記万覚日記1』として刊行することができた。

- ( 2 ) 八坂神社と直接関係しつつも、社外に所蔵される史料の調査・研究について  
近世の祇園社御旅所と深いかわりをもつ家として大和家がある。そのことは八坂神社所蔵の古文書や古記録から知ることができていたが、そのご子孫が京都錦天満宮の宮司職をつとめられていることがあきらかとなり、大和家の承諾のもと、大和家所蔵の古文書・古記録の調査・写真撮影をおこない、研究分担者が編纂委員として所属する大和家文書編纂委員会が『大和家文書』として刊行することができた。
- ( 3 ) 清水寺所蔵の史料の調査・研究について  
清水寺には近世成就院の役人としてつかえた人びとが書き残した古記録である『成就院日記』が幕末にいたるまで残されている。その翻刻作業と史料集としての刊行作業を研究代表者・研究分担者も所属する清水寺史編纂委員会と協力しつつすすめた。その成果の一部を『清水寺成就院日記』第4巻、第5巻、第6巻、第7巻として刊行することができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 222
2. 論文標題 地主祭の御旅所をめぐる変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 清水	6. 最初と最後の頁 54～68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 33
2. 論文標題 中世妙蓮寺の寺地と立地について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 興風	6. 最初と最後の頁 185～216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 39
2. 論文標題 元亀元年七月十九日松永久通書状	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良史学	6. 最初と最後の頁 87～90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 39
2. 論文標題 戦国期京都の土倉角倉吉田に関する二、三の問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良史学	6. 最初と最後の頁 68～86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 101
2. 論文標題 織豊期の文化と庭園	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所学報	6. 最初と最後の頁 13～22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 945
2. 論文標題 明智光秀の知られざる実像	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『學士會会報』	6. 最初と最後の頁 31～43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 870
2. 論文標題 天正九年、信長の馬揃(「御馬汰」)とその後	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本歴史』	6. 最初と最後の頁 22～29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 38
2. 論文標題 (弘治三年十一月二十一日)正親町天皇女房奉書写	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『奈良史学』	6. 最初と最後の頁 125～131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 64
2. 論文標題 秀吉生母大政所の「御煩」と伏見稻荷社	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『朱』	6. 最初と最後の頁 17～31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下坂守	4. 巻 1
2. 論文標題 八坂神社の歴史、江戸時代の社殿修理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 八坂神社本殿及び歴史的建造物調査報告書	6. 最初と最後の頁 7～52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 1
2. 論文標題 祇園祭と戦国京都	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 八坂神社崇敬会設立十五周年記念 講演録集	6. 最初と最後の頁 21～33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 第69巻4号
2. 論文標題 戦国期～織田・豊臣政権期の都市京都における「城」の立地と大路・小路	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地方史研究	6. 最初と最後の頁 21～33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 第47巻16号
2. 論文標題 信長はなぜ本能寺に滞在していたのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 45～54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下坂守	4. 巻 36
2. 論文標題 近世祇園御旅所考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奈良史学	6. 最初と最後の頁 1～30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下坂守	4. 巻 41
2. 論文標題 近世祇園社境内における「新地」成立過程の研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都国立博物館学叢	6. 最初と最後の頁 19～52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 716
2. 論文標題 中世史部会共同研究報告を聞いて(2021年度日本史研究会大会報告批判)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 60～63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 93
2. 論文標題 秀吉生母大政所の病と畿内近国の寺社	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良歴史研究	6. 最初と最後の頁 1～16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 84
2. 論文標題 永禄十一年上洛時における織田信長の宿所について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 戦国史研究	6. 最初と最後の頁 23～24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 34
2. 論文標題 中世頂妙寺の寺地と立地について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 興風	6. 最初と最後の頁 1～35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河内将芳	4. 巻 40
2. 論文標題 元龜二年九月十六日正伝寺納所・奉行連署起請文	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 奈良史学	6. 最初と最後の頁 164～165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 河内将芳	4. 巻 726
2. 論文標題 シンポジウム コメント	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 51～57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 河内将芳
2. 発表標題 秀吉生母大政所の病と畿内近国の寺社
3. 学会等名 奈良歴史研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河内将芳
2. 発表標題 明智光秀の知られざる実像
3. 学会等名 学士会午餐会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河内将芳
2. 発表標題 京都の祇園祭と山口の祇園祭
3. 学会等名 大内氏遺跡指定60周年記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内将芳
2. 発表標題 伝えられた祇園祭と鶯舞
3. 学会等名 第17回石見国巡回講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下坂守
2. 発表標題 描かれた中・近世の京都
3. 学会等名 地方史研究協議会 2019年度 第70回（京都）大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内将芳
2. 発表標題 戦国仏教と京都
3. 学会等名 顕本法華宗教学研究所公開研究例会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河内将芳
2. 発表標題 コメント
3. 学会等名 2022年度日本史研究会大会全体会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河内将芳
2. 発表標題 室町・戦国時代の祇園会神輿渡御について
3. 学会等名 都のまつり文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 河内将芳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 280
3. 書名 改訂 祇園祭と戦国京都	

1. 著者名 河内将芳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 202
3. 書名 大政所と北政所	

1. 著者名 日本史史料研究会監修、松園潤一郎編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 292
3. 書名 室町・戦国時代の法の世界	

1. 著者名 清水寺史編纂委員会編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 396
3. 書名 清水寺成就院日記 第6巻	

1. 著者名 下坂守	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 782
3. 書名 近世祇園社の研究	

1. 著者名 河内将芳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 248
3. 書名 室町時代の祇園祭	

1. 著者名 河内将芳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 240
3. 書名 信長が見た戦国京都	

1. 著者名 清水寺史編纂委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 416
3. 書名 清水寺成就院日記 第5巻	

1. 著者名 岩永てるみ・阪野智啓・高岸輝・小島道裕編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 144
3. 書名 「月次祭礼図屏風」の復元と研究	

1. 著者名 河内将芳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 392
3. 書名 戦国仏教と京都	

1. 著者名 清水寺史編纂委員会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 408
3. 書名 清水寺成就院日記 第4巻	

1. 著者名 清水寺史編纂委員会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 410
3. 書名 清水寺成就院日記 第7巻	

1. 著者名 河内将芳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 淡交社	5. 総ページ数 224
3. 書名 秀吉没後の豊臣と徳川	

1. 著者名 八坂神社文書編纂委員会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 311
3. 書名 八坂神社日記 万覚日記1	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	下坂 守  (SHIMOSAKA Mamoru)  (10150038)	奈良大学・その他部局等・特別研究員    (34603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------